

日本鐵鋼協會記事

理事會 昭和 10 年第 10 回

開會時日 昭和 10 年 12 月 3 日(火) 午後 5 時

出席者 水谷叔彦君 渡邊三郎君 吉川晴十君 河村 曉君
鹽田泰介君 服部 漸君

協議事項

1. 事業擴充資金募集に關する件、本日迄での應募額次の如し
(1) 維持口數増額 60 口 新舊合計 115 口(從來合計口數 55 口)
(2) 一時金寄附合計 1,800 圓
2. 海事協會の本會推薦技術委員任期滿了に付き改めて推薦方依頼に關する件。次の通り推薦する事を決議せり。
再理事 水谷叔彦君 再理事 渡邊三郎君 新理事 吉川晴十君(備考 服部 漸君引退され吉川晴十君代れり)
3. 來春四月開催の本會第 21 回通常總會々開日決定の件
以上は 4 月 5 日工學大會部會場に於て晝食前に開く事とす。
4. 日本鐵鋼協會第 13 回研究部會第 3 回鋼材部會「鋼材工場に於ける熱經濟に就て」を討議繼續することとし昭和 11 年 4 月開催を決定す。
5. 本會選出工學委員水谷理事が更迭方御申出に關する件
本理事會に於て次の通り推薦
舊工學會工業博物館建設委員並第三回工學大會接待委員 水谷叔彦君
新工學會工業博物館建設委員 依 國一君
新工學會第三回工學大會接待委員 吉川晴十君
6. 入退會者及會員異動に關する件(自 11 月 7 日至 12 月 3 日)

イ、入會者承認數 維持會員 4 社 正會員 1 名 准會員 5 合計 10 名
外に次記の兩氏を賛助會員に推薦す
東海電極製造株式會社取締役社長 寒川恒貞君
株式會社電氣冶金工業所取締役社長 東馬三郎君

ロ、准會員より正會員へ轉格者 2 名 茂木吉治君 渡邊九二君
ハ、退會者承認數及び氏名 9 名

正會員 發動機製造株式會社 足立祐一 森 祐吉
准會員 水野 誠 大崎 豐 栗田政喜 平田龍馬 妹尾武雄
小泉八郎

ニ、死亡者 賛助會員 1 名 (氏名別項)

報告事項

1. 11 月分收支決算報告

以上の審議を了し午後 7 時散會せり。

編輯委員會 (昭和 10 年第 8 回)

開會日時 昭和 10 年 11 月 26 日(火) 午後 5 時

出席者 池田正二君 石原善雄君 田中清治君 長尾武雄君
山田良之助君 鹽澤正一君 廣瀬政次君

協議事項

1. 日本鐵鋼協會第 21 回通常總會並に本會講演大會(工學大會部會)開催に關する件
a 講演者募集及其取扱 b 研究部會開催 c 其他細目
2. 製鐵用術語集編纂中にて其適語の審議
3. 鐵と鋼第 22 年第 1 號上掲論文原稿。選定の件

決定論文

- (1) 白銑鐵の脱炭に就て(第 3 報) 内藤 逸策
- (2) 熔融炭素鋼及ニッケル鋼中への諸元素の擴散に就て 齋藤 大吉 上村 勝二
- (3) 微量のマグネシウムがアルミニウム—亜鉛β固溶體の共析變態に及ぼす影響に就て 今井 弘 萩谷 正巳
- (4) 鑄造用アルミニウム合金の流動性 森永 卓次

以上を議し午後 8 時散會せり。

新入會者氏名

居所又は宛名先	勤務先又は職業	會員別	入會者 氏名	紹介者
蒲田區萩中町四三五	東京製鋼所代表社員	正會員	遠 藤 岸 郎君	田 中 清 治 郎
福岡縣八幡市平野町三丁目	日鐵八幡製鐵所	准會員	守 田 滿 雄君	松 原 武 三 郎
横濱市鶴見區鶴見町五五四	工學士 日本鑄造株式會社	〃	井 上 博君	田 中 清 治
久留米市櫛原町一丁目	旭製鋼所	〃	寺 崎 英 雄君	村 松 橋 太 郎
品川區大井森前町五六〇〇 三菱重工業 東京機器製作所		〃	窪 田 三 雄君	飯 高 一 郎
蒲田區御園町二六七	芝浦製作所研究所	〃	正 林 寛 三 郎君	中 村 素

死 亡 者

本會賛助會員 木村久壽彌太君は去る十一月二十五日長逝せられたるは洵に痛惜の至りなり茲に謹んで申意を表す

日本鐵鋼協會第十五回講演大會概況報告

(實行委員報告)

講演會之部

講演會場として神戸商工會議所を當て、受附、準備室、委員室、會員控室、携帶品預室、食堂其の他諸般の準備遺憾なく整頓せられ殊に圖表掲卸の装置は最も實用に適し迅速に行はれ講演時間の進行上多大の便宜を得甚だしく順調に運びたり。

第1日、10月17日(木曜日、神嘗祭)快晴

神戸市に本大會を開催せらるゝは今回を以て嚆矢とし参加會員、450名に達し非常なる盛況を見たり。

午前9時大會準備委員長小田切延壽君の開會の辭並びに「神戸市附近に於ける工業の分布状態に就て」の講演あり、引續き三田、山田(西村博士代講)錦織、堀、田所の五君の順序に講演を進行し正午、午前のプログラムを終り晝食となる。

午後1時再開し大日方、野上、渡利、佐藤、小野、高橋、志村、武田、齋藤各君の講演あり。午後5時40分極めて盛況裡に第1日のプログラムを終了したり。

第2日、10月18日(金曜日)快晴

前日に劣らぬ快晴にて午前9時開會、吉澤、多賀谷、谷村、藤村、太田、濱住の六君の講演を終り晝食、午後1時再び開會、澤村、谷山、矢島、小林、下村、楠瀬、石原の七君の講演を終る頃暮色會場を包む、終りに野田會長起つて別記閉會の辭を述べられ前後二日間に互る學術講演會を終了し、オリエンタルホテルに於ける懇親晚餐會に移れり。茲に講演者の熱誠克く其の要旨を明瞭に開陳せられ、聴講者一同裨益する所尠なからざりしを特記し感謝の意を表す。尙神戸商工會議所は研究部會を通じて三日間、さしもに廣き諸設備を殆ど全部鐵鋼協會の爲に開放せられたる事、又土岐神戸鐵工組合長の御厚意によつて高尾鐵工所より數臺の自動車を兩日に互り終日配屬せられ協會役員、大會役員の使用に供せられたる事は感謝に堪へざる所である。

晚餐會 10月18日午後6時よりオリエンタルホテルにて開會デザークースに入り先づ會長立ちて卓上演説を始む

會長 野田鶴雄氏 本夕は日本鐵鋼協會第15回講演大會を無事終了し、斯界の名士、權威者多數の御參集を得まして盛大なる晚餐會を開く事を得まして、講演者、委員諸君の御努力を感謝します。2日間學術、技術にのみ頭が向つておりましたからこゝで我國の鐵鋼界の現状を一寸申し上げたいと思ひます。

輸出の大部分は滿洲國であります。極く最近に支那の上海から有力なる鐵商を招いて我國の工場などを見學させましたから今後多少其の方面にも出ると考へられます。大體40萬噸の見當です。此の方面が開拓されて註文が多くなつて参りますれば更に鐵鋼界の景氣は向上するものと考へられます。明治49年からずつと統計をとつてみますが。

昭和5、6年と降下して283萬噸は昭和6年には193萬噸になりました。然るに數年來のインフレ及び軍需景氣によつて一轉向上し、昨年本年と躍進の一路を辿り本年は今迄の傾向からしますと昭和6年の2倍に達するだらうと考へます。これは其の間に何等の關係のない事かも知れませんが、政府の歳出の増加する年には鐵鋼の需要も増加してゐると云ふのが明治49年以來の同傾向で鐵鋼の需要と歳出とは殆ど平行な曲線で上降して居ります。政府が金

を多く出す時には鐵鋼を多く使ふかと云ひますときうではないでせうが197萬噸に降下した時には政府の歳出は20億に日本の歳出が下りました。公債を30億募集した年には367萬噸に達しました。不思議な現象ですけど我國では此の様な平衡關係が成立してゐます。之は理窟ぬきにcurveから出た事實であります。本夕は本會開會以來の多數の皆様御參會を得ました事を深く感謝致します。

縣知事代、副見經濟部長 甚だ借越でございませうが縣知事代理と致しまして一言申し上げます。今回日本鐵鋼協會に於かせられましたは當地に大會を開催されまして、此の機會に盛大な晚餐會を催され私共迄御招待下さいました事を感謝致します。

聴く所によりますと大正4年創立以來日本の斯界の權威者を網羅し、日本鐵鋼界の發達に非常に御貢獻されて來れました。斯工業の進歩は我國内の他の産業の進歩に影響する事が甚大であります。即ち鐵鋼界の進歩に貢獻する事は他の産業にも貢獻してゐる事があります。此の神戸市は貿易港として昨年度の輸出入總額は16億圓に達しました。即ち神戸港の繁榮は我兵庫縣全體の繁榮に影響する所が尠くありません。これには矢張り鐵鋼業の方も尙益々盛んとなる事が必要であると信じます。今回當地に於て大會が開かれ有益な御研究が發表され、同時に神戸市及び附近の産業状態を御視察下さる事になりましたが、其の際御氣付になりました點は何卒御教示下さいませすれば幸甚です。更に一層産業が振ふ様になりますれば幸です。

本夕はわざわざ御招待下さいました事を衷心より感謝致します。

委員長、小田切延壽君 私が大會委員を代表致しまして一言御挨拶申し上げます。此度は貿易港として隨一の神戸市に於て鐵鋼協會の秋季大會を開催し、今夜は又知名の士の御列席を得て此の盛大なる晚餐會を催す事が出来たのは我々委員として誠に感謝の至りであります。

私等も夫々準備のために相當心を用ひ種々の方面にも願ひもしましたが、未だ充分皆様御満足を得る事が出来ない事を遺憾に存じます。一昨日は研究部會が開催され昨日今日は總ての方面の研究が發表され、又諸工業の有力者の御參集を得て色々有益な御説を聴く事が出来まして、我々は益々此に對して盡力しなければならぬと云ふ感を深くしました。今後日本鐵鋼界の一層の隆盛を期すると共に將來は世界の斯業を指導せんとする意氣を持つてやりたいものと思ひます。若し皆様御賛同を得ますれば今後も度々此の地方で大會を開いて頂きたいと思ひます。今回三木地方では殆ど全町を擧げて種々の御便宜を與へられましたこと及び委員諸氏の長い間の御努力を茲に感謝致します。

前會長、河村 駒君 テーブルスピーチをする適任の方が他に澤山ございまして私のお出する所ではありませんが折角の御指名でございませうから一言申し上げます。今回當地に於て鐵鋼協會の第15回講演大會を開催致しました所、出席者450名、今夜の晚餐會には160名の多きに達する盛況を得ました事は本會の創立以來初めての事です。此の様な盛大な大會となりました事は當地方が日本鐵鋼界で如何に重要な生産地であり諸工業の盛んな所で従つて鐵鋼の大きな需要地であると云ふ事を物語つてゐます。又當地

は會員の數も非常に多數であります。

此の盛大な大會を開催するに當りまして小田切委員長を初め委員諸氏の大きな御努力を感謝致します。尙ほ明日から見學させていただきます工場各位にも御禮申しあげます。

本會の盛況の一つの理由としまして近年に到つて本會の事業が一般に認識せられました事も其の原因であります。此は創立以來の役員及び會員の熱心なる御努力の結果であります。然し乍ら此の本會の事業は稍々進歩して参りましたけれども時勢の進運は日に日に目ざましいものです。日本の工業は近年外國に勝つて來たと申しますが尙ほ内容を檢しますとまだまだ充分とは云ひ得ません私共は將來外國に對して少しも遜色のない様に又外國よりも一歩進歩する様に如何なる困難障害にも勝つて前進する勇氣を必要とします。我々の研究、事業ばやがて國家に貢献すると信ずる次第であります。従つて鐵鋼協會の事業も將來ますます重大になりつつあります。過去 10 年間毎年 2 度講演大會を開き色々研究會を開催し、又一般の鐵鋼の知識の普及を計り鐵鋼業の進歩に貢献する所が多かつたと信じます。尙ほ將來本會のなすべき仕事は非常は澤山あります。今日の状態で停止してはなりません。現會長初め委員の間では如何なる事業をなすべきか、又如何なる飛躍をなすべきか、そしてそれに対する資金の問題に就て協議されておます。今日は申し上げませんが其の成案が出来ました時には、會員諸氏の屬される會社に御後援を御願ひする考へであります。其の際諸君に社長から御詢問されました時には本會の目的、事業をお話しになつて益々本會が盛んになります様御答辯御助力の程お願ひします。

川崎造船所艦船工場所長、吉岡保貞君 私は僭越でございますが、日本鐵鋼協會の發展を祈り茲に盃をあげて鐵鋼協會の萬歳を唱へます。御唱和願ひます。

(萬歳三唱 乾杯)

解散 見學之部

第3日 10月19日(土曜日)快晴

午前9時神戸製鋼所海岸工場従業員集會所に參集、會員約400名受付にて同社パンフレットを贈與さる。茶菓の饗應を受けつゝ社長田宮嘉右衛門氏の挨拶及び工場概要の説明あり。次で野田會長其の厚意を謝し後數班に分れ約40分間海岸工場を見學す。終りて數町徒歩にて西隣の川崎造船所製鋸工場に向ふ。

午前10時數班に分れたる見學員は夫々案内者に伴はれ約40分間見學せる後同所食堂に參集、所長小田切延壽氏の挨拶の後同社パンフレット其他記念品を贈與され、神戸製鋼所共同出資の晝食の饗應を受く。晝食後A、B兩班に分れA班はランチに乗船三菱神戸造船所に向ひ、B班は阪神電車春日野停留所より乗車尼ヶ崎に向ふ。

尙午前9時より正午迄の隨意見學工場たる神戸製鋼所山手工場西隣りなるダンロップ護謨極東株式會社の見學者約60名はパンフレット及び記念品を贈與さる。

A班。

正午川崎製鋸工場よりランチ3艘に分乗午後12時30分川崎造船所艦船工場に上陸廣場に設けられたる天幕休憩所内にてパンフレットを頂き茶菓の接待を受けつゝ所長吉岡保貞氏の挨拶並びに艦船工場の沿革と現状に就ての話あり。次いで河村前會長の謝辭ありて後數班に分れ約50分工場内を見學再びランチに便乗し三菱造船所に向ふ。パンフレットを頂き茶菓の接待にあづかる。同所々長松井

小三郎氏の歡迎の辭並びに島岡亮太郎氏の答禮の辭ありて後數班に分れ約50分工場見學徒歩にて三菱電機製作所に到る。所長宮崎駒吉氏の歡迎の辭あり。加藤榮一一同を代表して謝辭を述べらる。終つて數班に分れ約40分工場見學、貸切市バスにて川崎車輛工場に到る。パンフレットを贈與され茶菓の饗應にあづかりつゝ總務部長深浦龍雄氏の挨拶並びに同所沿革に就て説明の後河村前會長の謝辭ありて工場見學に移る。次いで地續きの川崎造船所製鋼工場を見學し午後5時見學終了す。

B班。

午後12時30分尼ヶ崎停留所前に參集、同地方關係各會社各位の御厚位によつて差向けられたるバス約10臺に分乗住友金屬工業會社鋼管製造所に向ふ。受付にて同社パンフレット並びに尼ヶ崎市商工共和會寄贈に係る市勢要覽其他地圖を頂き午後1時同社休憩室に集合、茶菓の饗應を受けつゝ所長木下亮吉氏の挨拶及び工場の概要の説明あり。終つて野田會長の謝辭ありて順次工場内見學に移る。約50分後更にバスに分乗阪神國道を西に疾走し南に折れて大庄村に於ける新興諸會社の見學に向ふ。午後2時20分日本亞鉛鐵會社着、パンフレットを渡され約20分工場見學、徒歩にて特許製鋸(近日作業開始の豫定なりき)を見學、其の隣りに位する尼ヶ崎製鋼に到る。工場内廣場に設けられたる休憩所に於て茶菓の饗應にあづかりたる後約20分工場見學、近接の大阪製鋸工場に到る。パンフレット、御土産品を頂いた後工場見學、終つてバスにて阪神出屋敷停留所に向ふ。途中東京ロール製作所尼ヶ崎工場を見學す。午後5時。第1日の工場見學を終了す。

第4日 10月20日(日曜日)隨意見學、快晴

午前9時帝國酸素兵庫工場に集合、見學者約70名、入口にてパンフレットを渡されたる後液體酸素製造に關する説明を聴きて約20分工場見學、徒歩にて約15分神戸瓦斯株式會社西工場に到る休憩所にてパンフレットを頂き二班に分れて工場内を案内され見學後各自山陽電鐵兵庫終點に向ふ。此處にて三木行の見學者約150名となる。午前11時10分二輛連結の貸切電車に乗り出發眼下に展開さるゝ須磨舞子の風光を賞でつゝ約30分後明石終點着、省線明石驛前に用意されたる神姫バス貸切車十數臺に分乗す、此處にて待ち合せたる見學者數十名一行180名の多數となる。午後12時30分三木町着縣立三木金物試験場に到り金物陳列室其他諸設備を見學し近隣の三木城趾に到る。三木金物販賣同業組合より種々のパンフレット並びに土産品を頂き晝食を受取つて城趾に設けられたる天幕張休憩所内に於て晝食をなす。午後1時20分三木金物試験場長坂口氏の三木町及び其の附近の金物生産に關する講演あり。後縣會議員三木金物販賣組合長黒田清右衛門氏の懇なる歡迎の辭に引續いて町會議員三木金物販賣組合副組合長小阪恒三郎氏の三木町及び其の附近に於ける古來の金物製作の歴史に就て講話あり。次に町會議員にして日本刀鍛冶職たる増子猪之助氏の日本刀鍛錬に關する興味ある話あり。午後2時30分バスに分乗豫め數十の工場中交通に便なる故を以て選ばれたる、ギムネ工場、鋸工場、洋刀工場、鉋工場、鑿工場等を見學し三木高等小學校内の町立青年學校に於て生徒の刃物製作狀況を見て後、地球ライオンショベル工場に到る。受付にてパンフレット及び土産品を寄贈され茶菓の饗應を受けて後約10分工場を見學、午後4時30分バスを連れて明石に引返す。午後5時明石驛着解散。

以上各工場に於ては何れも懇切なる案内と詳細なる説明を加へられ參加會員一同多大の満足と深き感謝に満ち見學を終了したる事を特記す。